

伝統和紙と現代を融合させるモノづくり

弊社は400年の歴史を持つ西嶋手漉き和紙の技術を継承し、書道用画仙紙や半紙などを作り続けて120年になります。2代目「笠井成高」は技術革新に取り組み、少ない労力で均一な和紙を効率的に製造する技術を開発、「セイコー式半自動抄紙機」として昭和45年に特許を取得し、今ではその技術はアジア全域に及んでいます。

ミツマタを主原料とした西嶋手漉き和紙は光沢のある平滑な紙で、毛筆に適していることから書道家に好まれ全国的に広がりました。しかし、書道用紙の需要が数十年前に比べて減少したことで価格の安い中国産の書道用紙が大量に輸入されるようになったため、西嶋和紙全体の生産量も減り、このままでは伝統ある西嶋の和紙が衰退してしまうと思いました。そこで、3代目の代表取締役に就任後に、需要の多いインクジェットプリンター用の和紙の開発に取り組みました。

墨となじみの良い西嶋手漉き和紙は、にじみを抑えた美しいカラープリントが可能で、ミツマタを使ったことで色の変化しにくいことから、現代らしい和紙の使い方として高い評価を受けています。その他にも、古文書修復用紙、和紙壁紙、和紙オルゴール、紙幣の裁断屑を再利用した縁起物の団扇・扇子・カレンダーなどを、独自の技法で作りました。現代の生活に和紙を適合させるために、和紙の新しい用途に目を向けています。

現在は、動植物や名画を題材に細密な下絵が描かれた「大人の塗り絵」が世界的に流行していることから、「富嶽三十六景」を題材に西嶋手漉き和紙の特徴を生かした「塗り絵」の商品開発を行っています。歴史や伝統を守り続けながら時代に合ったモノづくりをすることで生き残りにつながると思い、伝統和紙を現代と融合させる新しいモノづくりにチャレンジしていきます。

